



脳卒中再発予防のための

薬物療法の目的

監修：中村記念病院 脳神経外科 脳卒中診療部
部長 中川原 譲二

患者さんへのアドバイス・ポイント

脳卒中後の服薬コンプライアンスをよくするために

- 脳卒中の再発防止には、薬の効果とともに服薬の継続が必須であることを十分理解してもらい、正しい服用法・管理法を指導します。

服薬の必要性を理解していても、患者さんや家族が薬に対して不安や不信感を持てば服薬を中止してしまうことがあるので、やさしくていねいに指導しましょう。

- 副作用、他の食品サプリメント等との相互作用について説明します。
- 飲み忘れた時には「時間がずれてもその分を飲む」、あるいは「忘れた場合はその分は飲まなくてよい」など、薬剤ごとに正しい対応を指導します。
- 副作用が現れていないか、患者さんには服用後の様子を十分注意してもらい、経過を報告してもらうようにします。さらに、経過によって服用の指示を変更する可能性を伝え、患者さん自身が勝手に追加服用しないように指導します。

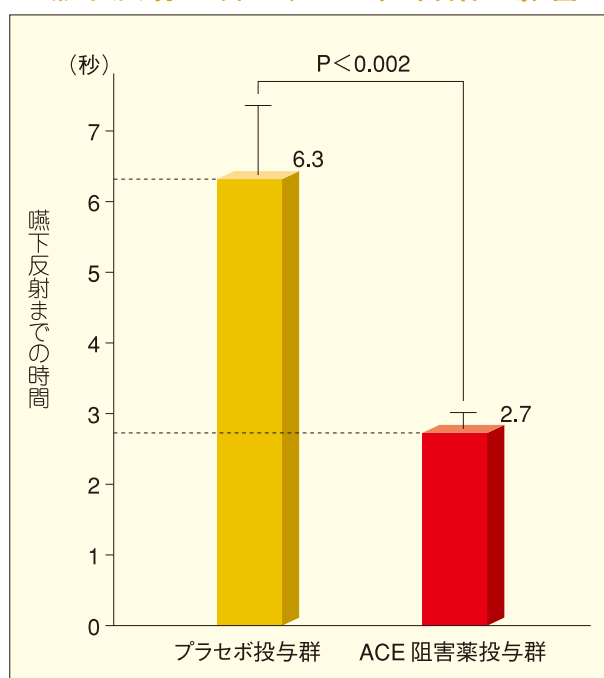
誤嚥性肺炎患者に及ぼす ACE 阻害薬の影響

ACE 阻害薬による、誤嚥性肺炎患者の嚥下反射改善の有無を検討しました。正常血圧の肺炎患者 22 例と健常人 10 例に、二重盲検にて通常用法用量内の ACE 阻害薬とプラセボを 2 週間投与した後、嚥下反射の起こる時間を測定しました。その結果、健常人には両群間の違いは認められませんでした [ACE 阻害薬投与群 1.4 (± 0.2) 秒 vs プラセボ投与群 1.2 (± 0.1) 秒; N.S.]。肺炎患者においては ACE 阻害薬投与による反射時間の短縮が認められました [ACE 阻害薬投与群 6.3 (± 1.1) 秒 vs プラセボ投与群 2.7 (± 0.3) 秒; $p < 0.002$] (右図)。これにより、嚥下反射が弱くなっている誤嚥性肺炎患者の嚥下反射改善に ACE 阻害薬の投与は有効であるといえます。

対象：正常血圧の肺炎患者 22 例と健常人 10 例 (平均年齢 75 歳)

方法：二重盲検にて通常用法用量範囲内の ACE 阻害薬とプラセボを 2 週間投与した後、咽頭へ蒸留水を注入し嚥下反射までの時間を測定。

嚥下反射に及ぼす ACE 阻害薬の影響



Nakayama K. et al. : Chest 113 : 1425, 1998

脳卒中の再発を予防するためにはお薬を継続して飲む必要があります。お薬は、それぞれの患者さんに合った処方されますので、指示通りにきちんと飲みましょう。お薬の飲み方を勝手に変えると、病気が悪化する場合があります。もし、飲み忘れたときは、服用間隔をずらすなどして、決して一度に2回分を飲まないようにしてください。

監修:中村記念病院 脳神経外科 脳卒中診療部
部長 中川原 譲二

脳卒中の再発予防について

薬物療法の目的

脳卒中を起こす危険因子を軽減するためにさまざまなお薬が処方されます。いずれも脳卒中の再発予防のために長期間の服用が求められており、定期的な通院と副作用のチェックが必要となります。

1. 抗血小板薬、抗凝固薬：

血栓を作りにくくするために服用します。

2. 脳循環改善薬：

意欲低下、めまいなどの症状を改善するために服用します。

3. 血圧降下薬：

血圧を下げるために服用します。

4. 抗高脂血症薬：

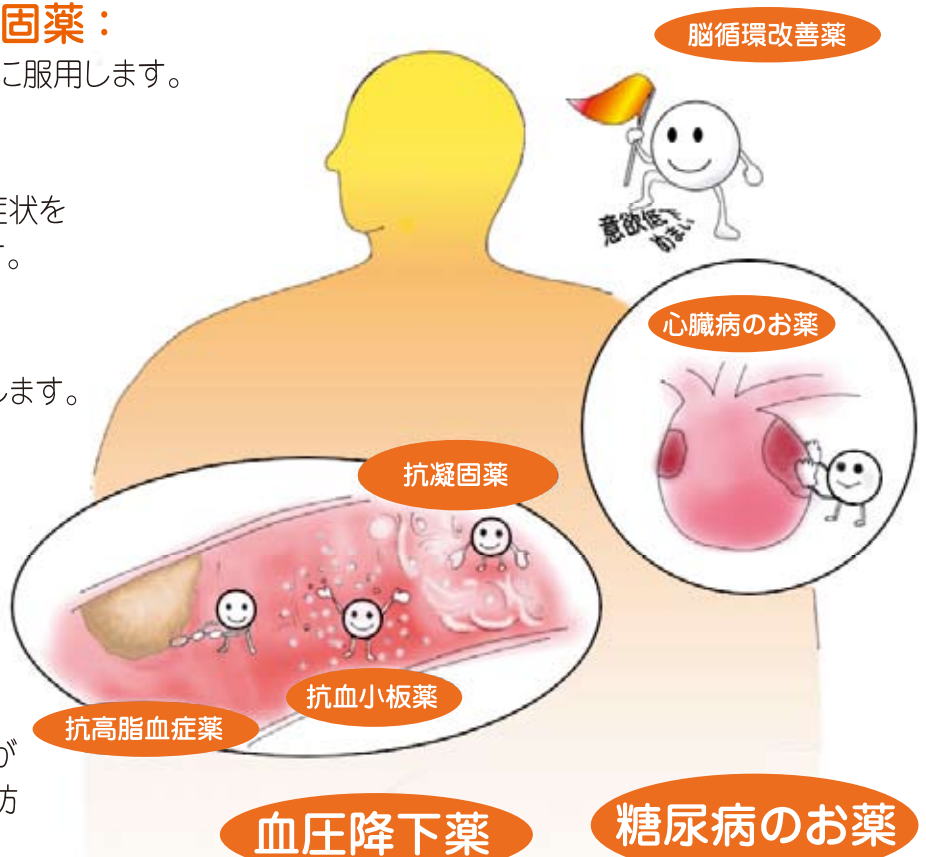
血液中のコレステロールや中性脂肪を下げるために服用します。

5. 心臓病のお薬：

不整脈や狭心症・心不全が原因で起こる脳卒中を予防するために服用します。

6. 糖尿病のお薬：

血糖値を下げ、糖尿病の進展を防止するために服用します。



なぜ、血圧の管理＝降圧療法が必要なのでしょう？



一度でも脳卒中を起こした患者さんは、一般的に血圧が高いため、再び脳卒中を起こす確率が高いといえます。高血圧は放置しておくとも血管を傷つけ、動脈硬化の進展が早まり、脳卒中だけでなく心臓病、糖尿病、腎臓病などの発症リスクを増加させるため、厳格な管理が必要になります。

降圧療法にはどのようなお薬が用いられるのですか？



降圧療法に用いられるお薬にはいくつかの種類があります。医師は患者さんの病状に合わせてもっとも効果が得られるような処方を行います。高血圧症は心臓病、糖尿病、腎臓病などを合併しやすいため、最近では臓器に対する長期的な効果を考慮し、いくつかの作用を合わせ持ったお薬も処方されています。脳卒中再発防止のために、どのようなお薬が処方されているのかを医師にたずねてみるのもよいでしょう。

トピック

脳卒中後に多い嚥下^{えんげ}障害と肺炎

脳卒中後の患者さんは、食事中に嚥下障害によってしばしば^{ふけんせいごえん}気道に食べ物や飲み物が入る「不顕性誤嚥」を起こします。また不顕性誤嚥は高齢者にも多くみられ、肺炎を引き起こす原因のひとつであることが知られています。不顕性誤嚥による肺炎の予防には、食事の形態、口腔ケア、誤嚥予防の体操、アイスマッサージや嚥下反射を改善するお薬の処方などがあります。


※嚥下:飲み込むこと



呼吸器学会発行の「呼吸器感染症に関するガイドライン^{*1}」において、脳卒中後の高血圧患者さん^{*2}に降圧薬としてACE阻害薬を用いると、誤嚥による肺炎予防効果が期待できると推奨されました。

^{*1} 日本呼吸器学会発行「呼吸器感染症に関するガイドライン」成人院内肺炎診療の基本的考え方：47-48, 2002

^{*2} ただし寝たきりでない場合

提供： 田辺三菱製薬株式会社
制作・発行：メドトラックス株式会社